

# 糸我小学校だより

令和元年8月26日



## 充実した2学期に！

夏休みが終わり、子供達の元気な笑顔が学校に戻ってきました。朝、大きな声であいさつしてくれる子供達を見ると、夏休みを楽しく過ごした様子が伝わってきます。

さて、7月21日（日）8時から、保護者と教職員による環境整備作業を行いました。今回は、樹木の剪定とグラウンド周りの溝掃除、校舎の窓ふきを行いました。

保護者の方が31名参加してくださり、教職員と合わせて43名が3グループに分かれて作業をしました。みなさん暑い中を一生懸命作業してくださり、見る見るうちにすっきりときれいになっていきました。

おかげさまで、2学期から子供達が気持ちよく勉強したり、活動をしたりできるように環境を整えることができました。参加して下さった保護者の皆様、どうもありがとうございました。



2学期は運動会や社会見学、音楽発表会、マラソン大会と行事が数多くあります。実りある学期となりますよう、教職員一同力を合わせて取り組んでまいります。保護者の皆様には、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

## 平和を願う

7月9日（火）に広島市から古賀とし子さんをお迎えして、4・5・6年生に「被爆者体験伝承講話」をしていただきました。被爆体験証言者から聞き取ったことや、古賀さん自身の体験からのお話でした。

原爆が投下されたときの様子や、投下後の悲惨な様子を画像を見せながら話してくださいました。熱線や爆風、放射線によって、広島市で35万人のうち14万人が死亡したこと。また、命が助かったけれども、火傷や放射線による被害に苦しむ人がたくさんいたことも知りました。お話を伺い、テレビや新聞等で見聞きするよりも、原爆投下による被害の様子が切実に伝わってきました。

そして、古賀さんは最後に、平和で安心できる社会をつかっていくことの大切さを語ってくださいました。

今年も8月6日の広島原爆の日を迎えましたが、4・5・6年生は例年よりも重くこの日を受け止め、平和を願う気持ちを強くしたことと思います。



## 水質と水生生物調査

7月24日（水）に、糸我地域資源保全グループ主催による水質と水生生物調査が実施され、3・4年生の希望者19名が参加しました。

はじめに、講師の福永幸子先生の指導のもと、本校がアイガモ農法で稲を育てている田んぼに行き、アイガモのいる田んぼといない田んぼの土をさわって、感触を比べました。すると、アイガモのいる田んぼの土は、いない田んぼの土に比べてやわらかいことが分かりました。アイガモが泳ぐことで土をかきまぜてやわらかくし、稲がしっかりと根をはることができるということを教わりました。

次に近くの小川に行き、そこにすむ生物の観察を行いました。メダカやカワムツ、カワニナ、カゲロウ類が見つかりました。

その後、公民館において、福永幸子先生と川口真知子先生の講義を受けました。

福永先生からは、糸我で見られる水生生物のことや、田んぼの役割や米をつくってくれる稲のすばらしさなどを教えていただきました。

川口先生からは、COD（化学的酸素要求量）やpH（水素イオン数値）を測定することによって、水質を分析することができることを教えていただきました。また、実際に糸我の小川の水質を調べる実験もさせていただきました。そして、小川の水は、比較的きれいで、少しアルカリ性であることを知ることができました。

子供達はこの調査を通して、近隣の小川にすむ生物に興味を持ち、また、きれいな水や自然を保全していこうという意識を持つことができたと思います。



## 和歌山県立自然博物館で

夏季休業日に、私（川嶋）は和歌山県立自然博物館に行きました。

中に入ると、子供連れの家族が多く、いろいろと会話をしながら見て回っていました。私も強そうな風貌のワニガメや、大きな水槽で泳ぐたくさんの魚、海中の色鮮やかな生き物に目を奪われながら、ゆっくりと見て回りました。

第2展示室の化石や恐竜のコーナーに行くと、スピノサウルスの歯の化石が展示されていました。これは、うつのみやさとし 昨年の10月に湯浅町の栖原海岸で発見されたものです。東大阪市在住の会社員で化石収集家の宇都宮 聡氏が栖原海岸を訪れ、石を蹴ったところ、その石の中から化石が現れたと、当時話題になりました。

興味深くその化石をながめながら、有田にも恐竜がすんでいたのだなど、遠い昔に思いを巡らせました。

